スクールカウンセラーだより　No.7

令和６年11月

SHONAN GAKUIN HIGH SCHOOL

スクールカウンセラー　中野隆治

「涙が出るほどわかる」

最近、こんな詩に出会いました。少し長いですが、紹介します。

あんたが　見つめているものは　あんまり高いので

わたしは　見つめることができない。

あんたが　思いつめていることを

思いあてることは　とてもできない。

けれど

あの遠い世界と　だまって　ただ向かい合って立っている

あんたの姿は　あんまり自然なので　よく判(わか)る。

涙が出るほど　わかる。

（天野忠(あまのただし)『きりん』）

同情と共感という言葉があります。よく似ているようですが、その意味するところは全く違います。同情とは、他の誰かが不幸にある時、その人に憐(あわれ)み（かわいそうだ）の感情を持つことだと思います。一方、共感とは、幸不幸に関係なく、その人の持っている気持ちを理解し（わかる）、その気持ちを自分の中に受け入れることではないでしょうか。

詩人は、あんたの気持ちは「よく判る」と言っています。ただし、「涙が出るほどわかる」と付け加えています。

何が「わかる」のでしょうか。

キリンと人間は、そのあまりにかけ離れた目線の高さから、お互いに理解できない存在として、認識せざるを得ません。その心中を思い遣(や)ることなど、不可能だと作者は言うのです。ただ、遠く離れた故郷アフリカを思い遣る姿が、そのどこかもの思わしげな視線とともに、作者には共感できたに違いありません。そして、「涙の出るほどわか」ったのです。

詩人もまた、故郷を遠く離れ、遥(はる)かな世界を思い遣っているのかもしれません。あるいは、「生の悲しみ」というものでしょうか。生きていることの悲しみを、キリンと共感しているのかもしれません。・・・・・何故、遠く離れてしまったのだろうか、と。

人間と人間を結びつけるキーワードは、実は「共感」という言葉かもしれません。ある人の感情を、まるで我(わ)が事(こと)のように受け入れ、その人の身になって、その人とともに生きて行く・・・・・そんな感情が、人々の間に静かに浸透(しんとう)して行ければと思います。やがて、その静かな広がりが、人々や世界の幸福を導いて行くのではないでしょうか。